

## 精神科病院、もういない 元院長、地域との共生を目指す



精神障害がある人たちと長野敏宏がゼロから始めたアボカド栽培は、  
試行錯誤が続く。スタッフとの打ち合わせは欠かせない  
愛媛県愛南町で

半世紀余り続いた2階建ての病院は取り壊され、姿を消していた。  
「ひどいところでした、ほんとに」。院長だった長野敏宏(51)は昔を思い出し、ぽつりと  
言った。

愛媛県の南端に位置する愛南町。町唯一の精神科病院「御荘病院」は、海と山に  
囲まれた高台に建っていた。最大時には約150人が入院していたが、2016年に閉  
鎖。今は建物の一部を使った「御荘診療所」と、入院していた患者らが少人数で共同  
生活をするグループホームなどに姿を変えた。

長野の肩書は院長から診療所長になり、町で暮らす患者を外来と訪問診療で支える。障害者を病院や施設から地域へ——。世界の潮流だが、日本の精神科は特に立ち遅れている。自ら病院を閉じた長野は異色の存在。誰もが違いを認め、共に暮らす「共生社会」を体現した町の取り組みは、国内外で評価されている。

現在の愛媛県四国中央市で生まれた長野がこの町にやってきたのは1997年のことだ。愛媛大医学部卒で、「何となく」精神科を選択。大学病院に勤務の傍ら非常勤で時々来ていた御荘病院が肌に合い、赴任を決めた。

当時の院長が既に患者の地域移行を志向し、病床削減の計画を立てていたが、長野は「入院は必要だ」と反対だった。

だが、「家に帰りたい」と言っていた患者が年を取って亡くなり、死亡診断書を書くのはつらかった。「自分がされたくないことを患者にしている自己矛盾」に直面した。

鍵のかかる部屋に患者を閉じ込める隔離や、身体拘束。おかしいと感じることを徐々になくしていき、「入院ベッドなしでもやれるんじゃないか」と思うようになった。

33歳で院長に就任し、町のさまざまな役職を引き受けた。患者と一緒に地域の活動に参加し、病院の夏祭りには住民約1000人が集まるように。病床削減や地域医療への配置転換には内部の反発もあったが、職員の世代交代や意識の変化を経て、病院の廃止を実現した。



山のわき水を利用したアマゴの養殖。  
2年もの出荷のため、1匹ずつ網で慎重に捕獲する  
愛媛県愛南町で

統合失調症で約 10 年入院していた 60 代の男性は今、アパートで 1 人暮らし。「カラオケに行くのが楽しみ。自由がいい」としみじみと話す。

精神科医療では、医師が「入院が必要」と診断し、家族らのうち誰かの同意があれば、強制的に患者を入院させることができる。事実上、医師 1 人の判断で決まると言ってもいい。

しかし、愛南町に入院できる病院はもはやない。本当に必要な際は、隣の宇和島市で入院できるが、長野は「なるべく入院させない」。統合失調症で言動が不安定になる患者、ごみ屋敷のような家で暮らす人……。以前なら入院させていたが、今は何かあれば長野や看護師、精神保健福祉士らが 24 時間駆け付ける。

すぐに問題を解決しようとはしない。無理に治療しようとするれば、かえって心を閉ざしてしまう。家に引きこもり会ってくれなければ、何年でも通う。「他人から見たらぐちゃぐちゃの生活でも、そこでその人が暮らしていることが大事。すれすれまで地域で粘る」。最後は医師である自分が責任を取る。そう覚悟を決めている。

現在、長野が愛南町で携わる活動のうち「医療」はごく一部に過ぎない。むしろ事業家なのかと疑うほどだ。NPO 法人の理事を務め、温泉宿泊施設の運営などにも関わる。NPO は障害福祉サービスの事業者でもあるので、精神保健福祉士や作業療法士が患者と一緒にそこで働く。

背景には、少子高齢化が進む町の厳しい現実がある。人口はここ 20 年で 3 分の 1 減り、2 万人を割った。高齢化率は 46%。「困っているのは障害者だけじゃないし、働き手が圧倒的に足りない。産業をつくり、みんなが働かないと地域が立ちゆかない」と長野。

山を切り開き、新たな特産物にしようと、NPO で 09 年からアボカド栽培を開始。東京の有名店への出荷までこぎ着けた。かんきつ類やシイタケの栽培、川魚のアマゴの養殖も手がける。

事業は行政や地元企業の協力がなければ成り立たない。清掃会社社長で NPO の理事長を務める吉田良香(66)は長野と知り合って約 20 年。「一緒に挑戦も失敗もたくさんした」という盟友のような間柄だ。

「昔は精神障害者のことは避けていた。偏見があった」。吉田は率直に語る。「だけど、実際に会ってみたらイメージと全然違った。今は誰が障害者とか、もう関係ない」

長期入院や患者の人権侵害が問題視される日本の精神科医療。改革の必要性が叫ばれながら社会の偏見や、病院団体の反発などが複雑に絡み合い、なかなか変わらない。

長野は言う。「誰かを悪者にしても何も解決しない。時間がかかっても、私たち一人一人が自分のこととして一歩ずつ進めていくしかないんだと思う」(敬称略)